

学術研究を  
かんがえる  
シンポジウム

# 軍事研究と

# わたしたち

—どのように向かい合うべきか？



[講演]

**尾池和夫氏** 京都造形芸術大学学長  
元京都大学総長

**井野瀬久美恵氏** 甲南大学文学部教授  
前日本学術会議副会長

**11/26(日)13:00-15:00** 予約不要・無料

**京都大学 人間・環境学研究科棟 地下大講義室**

(吉田南キャンパス・吉田南総合図書館 西隣の建物・地下一階)

主催：自由と平和のための京大有志の会 共催：京都大学職員組合

## 講演者のご紹介



尾池 和夫（おいけ・かずお）氏

専門：地震学、理学博士

京都大学理学部卒、防災研究所助手・助教授を経て  
理学部教授、理学研究科長、副学長を歴任ののち

2003年～2008年 第24代京都大学総長

2009年～2013年 国際高等研究所所長

2013年より 京都造形芸術大学学長



井野瀬 久美恵（いのせ・くみえ）氏

専門：西洋史、博士（文学）

京都大学文学部卒、甲南大学文学部教授

2014年～2017年 日本学術会議第23期副会長

2015年より 国際科学会議（ICSU）・三大委員会

「科学研究における自由と責任に関する委員会」  
（CFRS）委員

## 軍事研究とわたしたち

—どのように向かい合うべきか？—

今年3月、日本学術会議は「**軍事的安全保障研究に関する声明**」を幹事会で採択し、「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」という従来の声明を継承する姿勢を明らかにしました。また、研究の自主性・自律性、研究成果の公開性を重視する観点から、**軍事的安全保障研究（軍事的な手段による国家の安全保障にかかわる研究）**の方向や秘密の保持をめぐる、政府による介入が強まることへの懸念を表明しました。

では、それぞれの大学では具体的にどのように対応すればよいのか。「**軍事研究**」とはなにか。

そもそも研究者や大学の「**社会的貢献**」とはどのように考えるべきことであり、それは研究の自主性・自律性という要請とどのように関連しているのか。

これらすべてのことをふまえた上で、各大学で具体的にどのような審査制度を構築していくことが望ましいのか。

研究者と学生・院生と市民の方々が混じり合う学園祭という場を借りて、考えてみたいと思います。

会場：京都大学人間・環境学研究科棟・地下大講義室  
吉田南キャンパス・吉田南総合図書館むかい  
（下・地図内 ★印の建物 地下一階）

